公同礼拝

２０２４年1月２１日(日) 午前１０時３０分
午後４時

司式　牧師　姜　徑米
奏楽　大澤葉子

前　　奏
招　　詞　　詩　編　９６編１～２節
讃　　詠　　５４６
主の祈り
聖　　書
イザヤ書　５章１～７節（旧 1067）
マタイによる福音書２０章１～１６節(新 38)
祈　　祷
使徒信条
讃 美 歌　　２０
説　　教　「恵みのあとさき」牧師 高橋和人
祈　　祷
讃 美 歌　　２３４A
献　　金
頌　　栄　　５４４
祝　　祷
後　　奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

１月の祈り

新年を迎え、御言葉を道しるべとする歩みが進められるように。

被災地の人々が守られ、その悲しみと不安が和らげられ、早い回復が与えられるように。救援にあたる人々の働きが力づけられるように。

被災地の教会の伝道者・信徒が守られ、教会の復興が支えられるように。

高齢で、また、体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

主日毎の礼拝が力づけられ、御言葉を証しし、宣教の使命を果たすことが出来るように。

地域の諸教会の祈りの交流の機会が回復され、それぞれの教会の歩みが力づけられるように。

能登半島の震災の被災者、また教会と教会員が守られるように。

病を負う人たちに霊と体の回復が与えられるように。

「恵みのあとさき」　　高橋和人
マタイによる福音書　２０章１～１６節

「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」(19:30) は主イエスの持っておられるものさしだ。主はそれを明瞭なたとえで語られた。ある家の主人が夜明けにぶどう園で働く労働者を雇うために夜明けから出かけた。ぶどうは手のかかる作物。収穫の時でなくとも、その時その時で手入れ作業が必要になる。身近な働き口だった。

主人は夜明けに出かけて行き１日の定められた賃金の１デナリオンで労働者を雇った。９時、１２時、３時と出かけて次々に仕事のないものを雇った。５時にもそうした。夕方、一日の終わりに最後に来た者たちから１デナリオンずつ支払われた。後のものが先になった。最初に雇われた者も同額であった。 それで、「最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとは。」とつぶやく。彼らは不公平を主張する。働きに応じた報酬こそ正当だと。時間、成果、結果、業績、能力は評価され、ふさわしい対価こそ求められる。これは、人のものさしの目盛りだ。

この目盛りは、大きさをはかることが出来るが、小ささをはかることはしない。そこに見えるのは人の一面でしかない。しかし、人はその目盛りに耐えられない。得たものは失われるからだ。

主の目盛りは、「先のものは後に」であり、「小さい者」に向かい(10.:42 13:32 18:6)、「高いものは低くされる」(18:4 23:12)ことだ。主がご覧になるのは人とは反対の向きになる。

主人は「不当なことはしていない、１デナリオンの約束をしたのだ。この最後の者にも、同じように支払ってやりたい」と同じものを与えようとする。主は自分のものを自分のしたいようになさる。主の恵みは主の自由なご意思による。主がお与えになる罪の救いであり命の価値である。主はそれを「わたしの気前のよさ」と言われる。

主人は早朝からぎりぎりまで、仕事にあぶれたものに声をかけ自分のぶどう園に受け入れる。その主人のために働きその恵みが与えられる。生きる恵みだ。主の御許に生きる恵みは、先のものが後になり、高いものが低くされるところ、悔い改めと罪の赦し、によってもたらされる。

人のものさしは不平と妬みをもたらしてきた。比較が基本になるからだ。主の慈しみは比べて分かるわけではない。語り掛けられ、呼ばれたことが分かればよい。